



公益財団法人 日本水泳連盟
Japan Aquatics

公益財団法人 日本水泳連盟 中期計画2025-2032

目次

1. 日本水泳連盟の目指す未来について
2. 中期計画2025-2032の背景と目的
～ドリームプロジェクト2020の継承と発展～
3. 中期計画2025-2032
4. ステークホルダーとの連携モデル
5. 推進施策とロードマップ

1. 日本水泳連盟の目指す未来について

理念・使命・行動指針

JAQUAの理念

水泳を通じて、国民の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する

JAQUAの使命

強化：センターポールに日の丸を！

競技力向上に努め、センターポールに日の丸を掲げ、人々に勇気と希望を与える

普及：国民皆泳

水泳の普及に努め、国民皆泳を実現し、人々の健康保持・増進と水難事故防止に貢献する

JAQUAの行動指針

1. 競技力の更なる高みを目指す
2. 水泳の楽しさと喜びを伝える
3. 水泳を通じた教育と交流の輪を広げる
4. 水泳ニッポンの歴史と伝統を明日へつなぐ

新名称・新ロゴ

日本水泳連盟は2024年に創立100周年を迎え、2025年4月より、新たな名称とロゴとなります。

「水泳」という言葉から、これまで以上に“水そのもの”という意味を持つ「AQUA」という言葉に変わり、泳ぐことだけでなく、水とのかかわりすべて、より幅広い領域に、日本水泳連盟として注力してまいります。



公益財団法人 **日本水泳連盟**
Japan Aquatics

日本水泳連盟の使命の実現に向けて

これまで日本水泳連盟が重点的に取り組んできた選手の強化に加えて、水泳がもつ価値を広げるため、様々なアセットを活用した競技普及についても推進していきます。

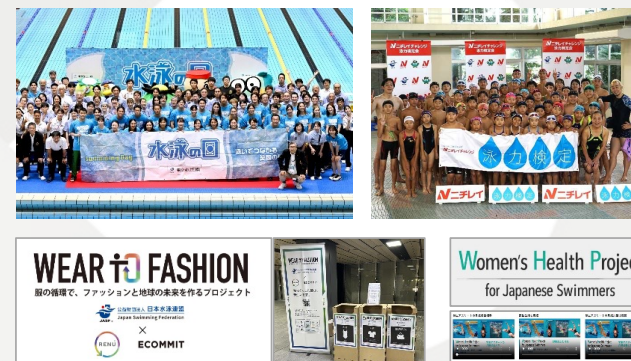
強化

日本水泳連盟の中心を担い続ける強化体制



普及

多面的なアセットを活用した競技普及



日本水泳連盟が描く未来像

日本水泳連盟の理念を実現していくため、2024年10月にスローガンを発表しました。水との関わりが深い日本だからこそ、競技だけでなく広い視点で、様々な活動を通じて社会に貢献し、国民が水を楽しめる環境作りを推進します。



水の国を、楽しみ尽くそう。

人類の起源は、水の中。
ひとりひとりが生まれる時も、水の中から。
そう考えるとわたしたちは、
生物として根本的に、水とつながっている。
ましてや日本は、水の国。
水と関わり合いのない生活を送る方が、
むしろ不自然でさえある。

だからこそわたしたち日本水泳連盟は、
「国民皆泳」を掲げる。
幼少期の体力から、老年期の健康まで、
水とともに生きていく。
水を楽しみ尽くすことは、人生を楽しみ尽くすこと。
この星に生まれた人類は、宇宙でもっとも運がいい。
この国に生まれた人たちは、地球でもっとも運がいい。



JAQUA®
公益財団法人 日本水泳連盟
Japan Aquatics

THE BASIC SPORTS宣言

すべての人が、「水の国を楽しみ尽くす」ことができる未来が実現するよう、日本水泳連盟は、水泳を「THE BASIC SPORTS」と再定義し、宣言します。

幼少期の「からだづくり」に

- 利き腕に関係ない
- 体幹が強くなる
- 肺機能が強くなる
- 空間認知能力があがる
- 免疫によい、風邪をひきづらくなる

子どもが将来どのスポーツを選ぶとしても役に立つ、
可能性を広げるためのスポーツ

中高年の「健康づくり」に

- 水の中では身体を動かしやすいので、身体が完全に機能しづらい人でもできる。
 - 水泳を通じ、コミュニティに属することで
肉体的フレイルのみならず、「社会的フレイル」の予防につながる。
- ※ 社会的フレイル＝家族や友人・知人との交流機会が減少するなど、社会的に脆弱な状態にあること。

スポーツの中でトップクラスに万人が長い間続けられる、
究極の生涯スポーツ

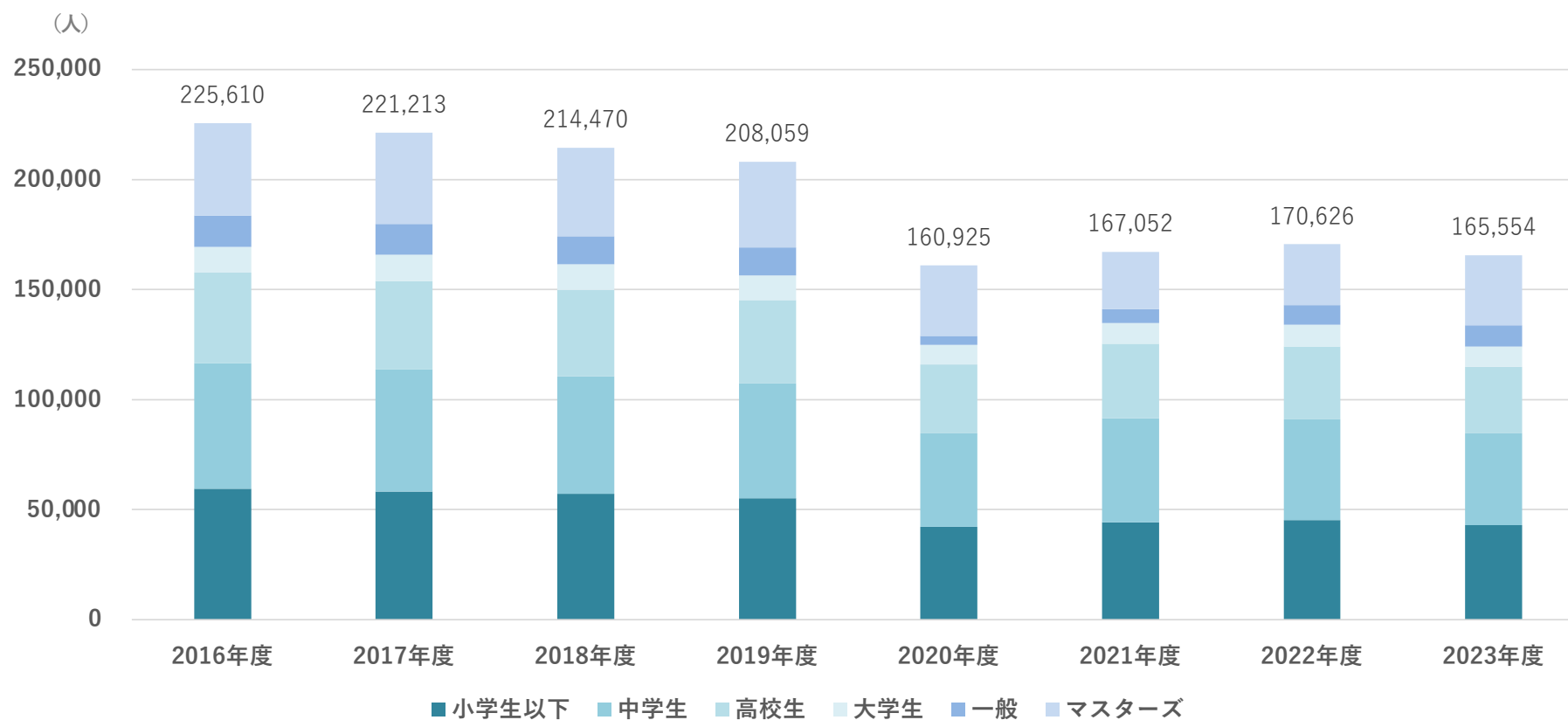
日本国内において、最も参加人口が多いスポーツの1つである水泳は
すべての人に役に立ち、誰しもにとって基本となるスポーツ

2. 中期計画2025-2032の背景と目的

～ドリームプロジェクト2020の継承と発展～

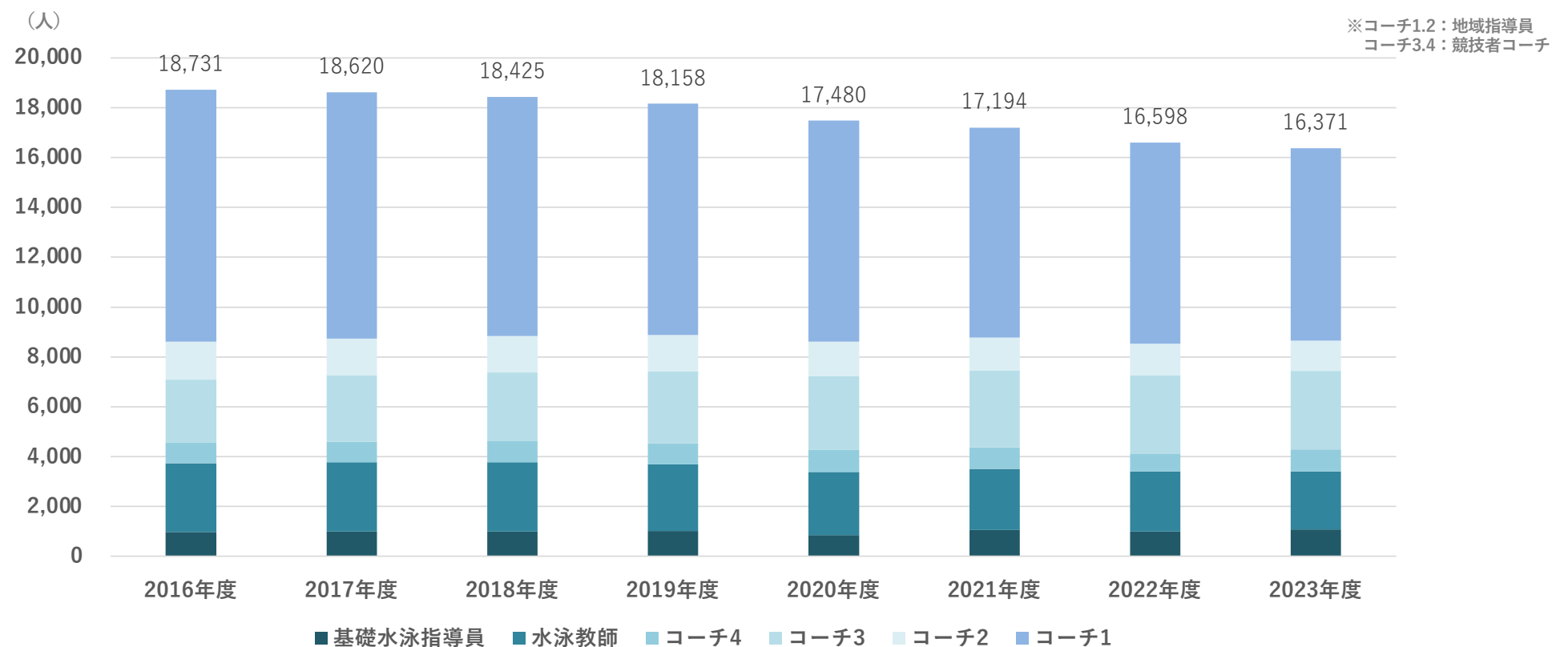
現状分析：競技者登録者数

2016年から2019年にかけて徐々に減少し、コロナ禍により急落。以降は横ばいの状態が続いている。



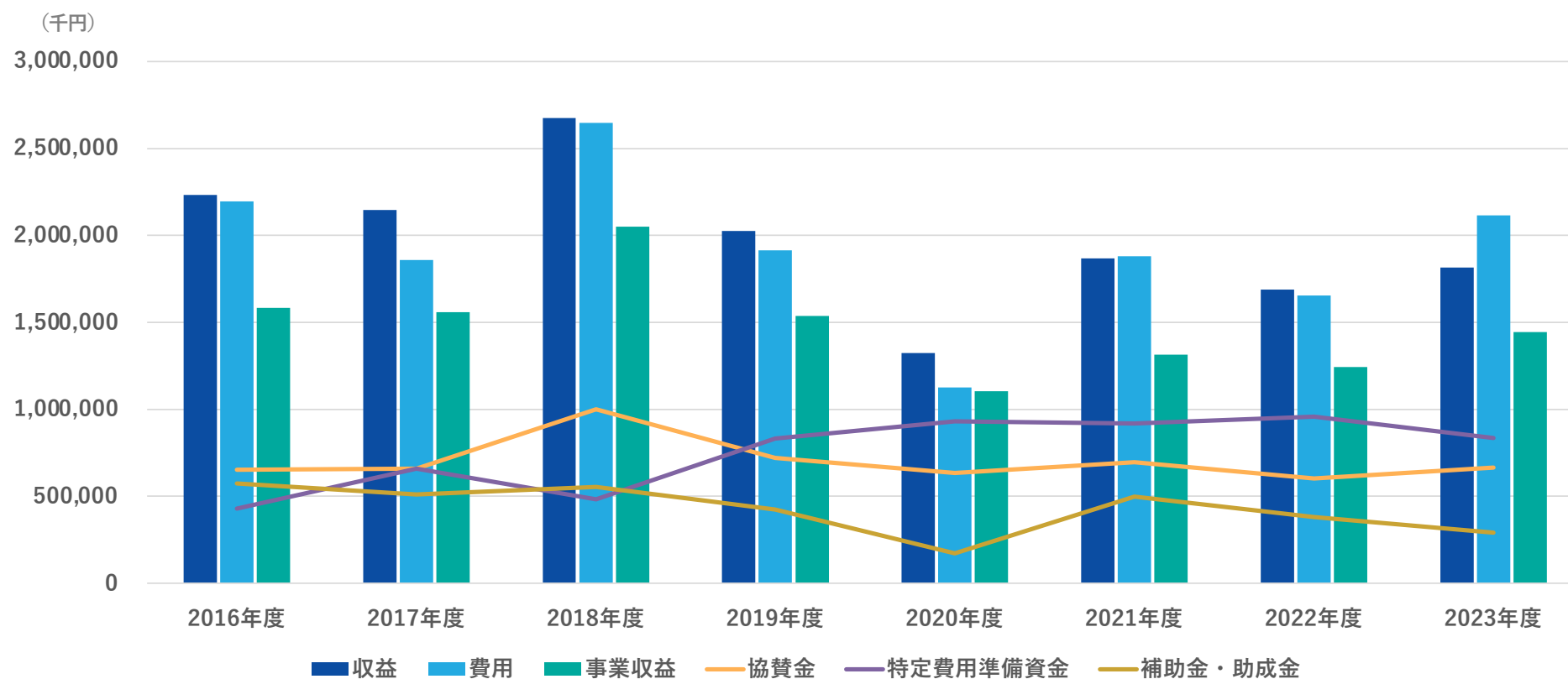
現状分析：指導者資格保有者数

2016年以降現在に至るまで徐々に減少しており、地域のクラブ・部活動等を対象としたコーチ1資格保有者の減少が主な要因となっている。



現状分析：決算状況

収益に関しては2018年以降伸び悩み、費用に関しては特に2020年以降は増加傾向となっている。



現状分析：PEST分析

Politics：政治

国際

- 国際情勢のリスクの高まり
- 地球温暖化の世界的な進行、異常気象の深刻化
- 貿易協定や関税政策の改定

国内

- 税制改革や労働法改正等の法律や規制の変更
- 防災政策の重要性の向上
- スポーツ振興政策/助成金の減少リスク

水泳界

- ドーピング問題に対する規制の強化
- スポーツ選手の政治的発言の影響力増加
- 国際スポーツ連盟によるルールや組織の改正

Economy：経済

国際

- 日本の国際的な競争力低下、円安の定着
- 原材料価格の変動、エネルギー価格の高騰
- 金利調整や資金供給の方針変更などの金融政策の見直し

国内

- 物価上昇、相対的な所得の伸び悩み
- スタジアム/アリーナを起点とした地方創生
- コンテンツ領域におけるファンエンゲージメント施策の多様化

水泳界

- 企業のスポーツ協賛の在り方の変化
- 実績を残したスポーツの人気上昇
- スイミングクラブに通う家庭の減少、スイミングクラブの経営難

Society：社会

国際

- 環境意識/サステナブル志向の高まり
- 働き方の多様化
- 都市部の人口集中、地域格差の拡大

国内

- 人口の減少、少子高齢化の進行
- 夏の時期に多発している水難事故
- 娯楽コンテンツの飽和

水泳界

- メディア視聴環境・視聴傾向の変化
- 教育分野の働き方改革、部活動/授業の形態変化
- 健康寿命の延伸化に伴う生涯スポーツの重要性増加

Technology：技術

国際

- ChatGPT等の生成AI技術の発展、普及
- 通信技術の高度化、普及
- クリーンエネルギー活用的一般化

国内

- 国による技術研究開発への投資促進
- 組織内におけるデジタルトランスフォーメーションの推進
- 電子決済およびキャッシュレス化の進行

水泳界

- 競技施設のデジタル技術活用による高度化・効率化
- スポーツ業界におけるスタッツデータ活用的一般化
- 新採点システム等における水中テクノロジーの進歩

現状分析：SWOT分析

Strength：強み

- 東京アクアティクスセンター等の充実した水泳施設/設備
- 多様な競技種目
- 全国各地に存在するスイミングクラブ施設
- 習い事としての高い人気
- 日本古来の無形文化財でもある日本泳法の存在
- 世界水準の競技運営
- 各都道府県の加盟団体との密接な連携体制

Weakness：弱み

- これまで強みとしていた競技力の低下
- 組織内外におけるコミュニケーションの形骸化
- 限られた環境活動および地域支援活動
- 競技者のキャリア構築
- ボランティアに依存した脆弱な連盟組織体制
- 競技成績に依存した事業収益構造
- 未熟なSNSの運用体制・戦略
- 個人スポーツ、アマチュアスポーツゆえのファン拡大における課題

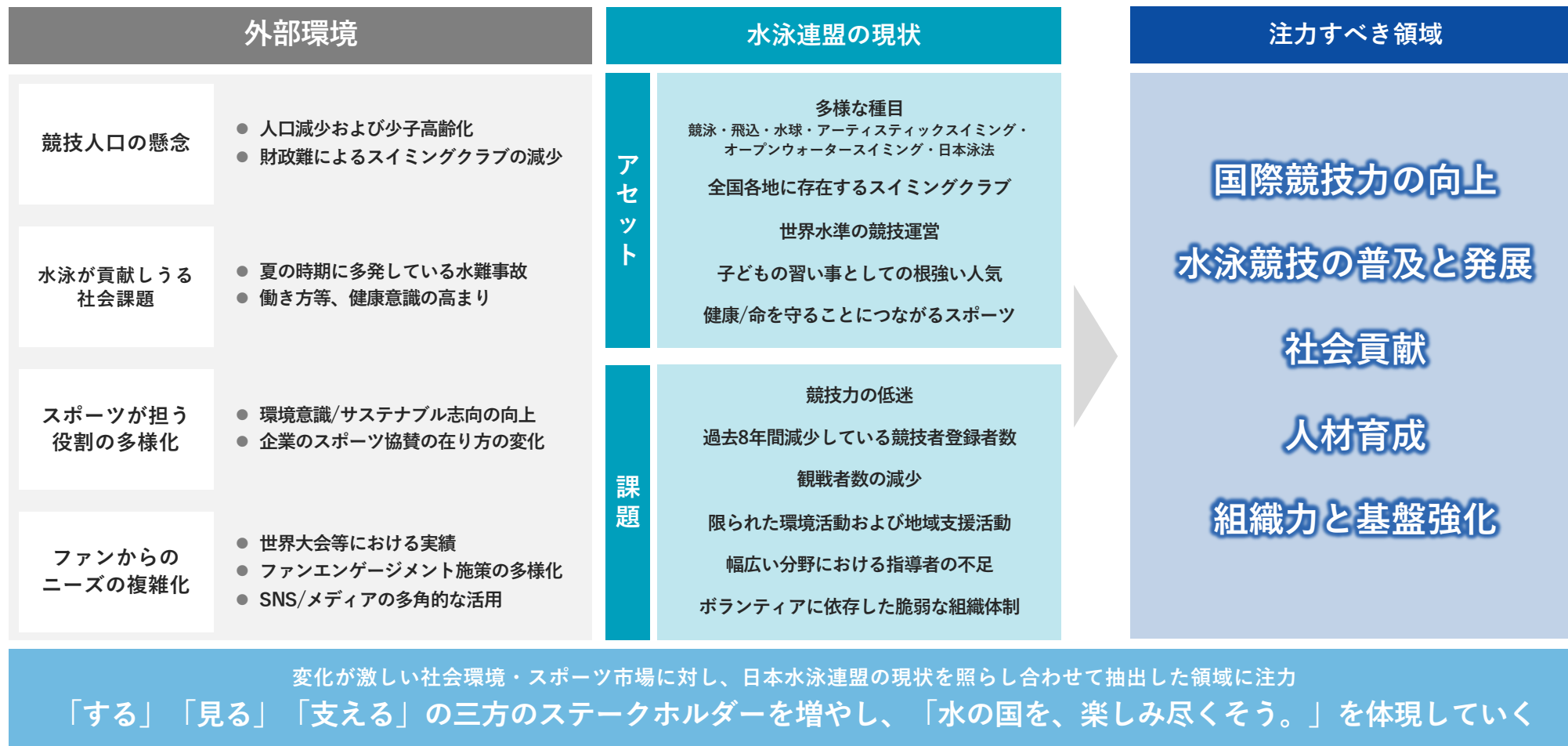
Opportunities：機会

- 生涯スポーツとしての根強い人気
- 命を守るスポーツという必要不可欠性
- 水泳の日、泳力検定等の普及施策アセット
- 数々輩出してきた、オリンピックOBOGとの連携
- 健康・フィットネス市場の拡大と高齢者ニーズの増加
- パラ水泳の発展とインクルーシブスポーツとしての可能性
- 学校水泳授業時間の減少に伴う安全指導の必要性

Threats：脅威

- 過去8年間減少している競技者登録者数
- 会場観戦者およびメディア視聴者数の減少
- 世界選手権 福岡大会での視聴率の苦戦
- 強化・普及両面における指導者の不足
- 他コンテンツ/他スポーツとのファン獲得競争の激化
- IT化への対応の遅れ
- 幹部人材の国際影響力の低下

現状分析：サマリー

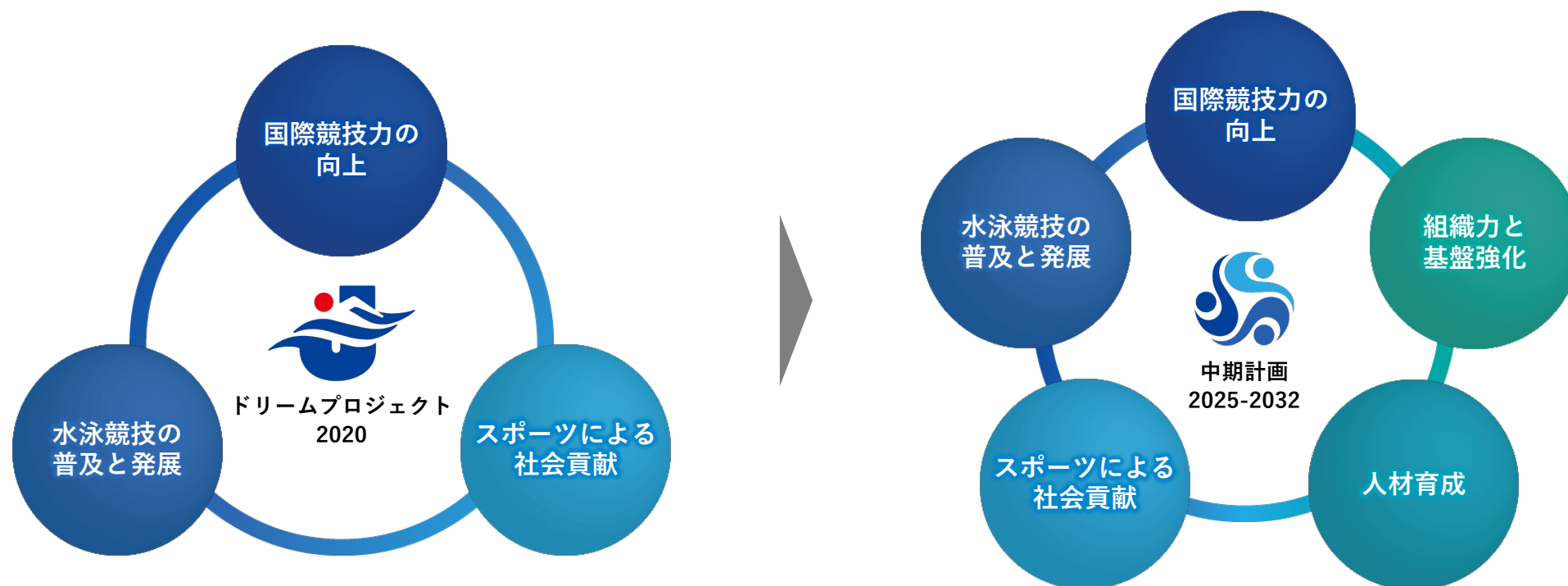


中期計画2025-2032のアップデートポイント

日本水泳連盟は、2012年に「ドリームプロジェクト2020」を掲げ、3つの構想を発表しました。

これらの3つの構想は、日本水泳連盟の活動の基盤となり、国内外で成果を上げるとともに、課題も見えてきました。

本中期計画では、この3つの柱を継承しつつ、新たに「人材育成」と「組織力と基盤強化」を加え、5つの構想に進化させることで、社会変化に対応し、水泳の競技価値にとどまらない社会的価値の創出を目指してまいります。



中期計画2025-2032の位置づけ

すべての人が「水の国を楽しみ尽くす」未来の実現に向けて、
柱となる競技力の強化と、THE BASIC SPORTSとしての地位の確立を軸に、
「する」「見る」「支える」の三方のステークホルダーを
さらに増やしていく8年間と位置づけ、
5つの領域についてアクションを推進します。



3. 中期計画2025-2032

中期計画2025-2032 5つの領域と主要アクション



3. 中期計画2025-2032

① 国際競技力の向上

主要アクション

- ・ 国際派遣大会の拡充によるジュニア～大学生世代の強化
- ・ 選手・コーチ・スタッフ間の密な情報連携と体制整備



① 国際競技力の向上

2032年に目指す未来

国際大会におけるメダル獲得総数 世界TOP5

100年間受け継いできた「センターポールに日の丸を」という使命を、今後の100年に向けても引き続き継承します。
5競技いずれにおいても、8年後をターゲットに全カテゴリー代表が最高成績を更新し、
世界のTOP5、ならびにアジアにおける確固たる地位を確立することを目指します。
また、若手世代の育成からベテランの継続的な活躍まで、全世代がコミュニケーションを密に取りながら、
層の厚い、一体感のあるチームの構築に取り組みます。

① 国際競技力の向上

KPI

国際大会におけるメダル獲得総数 世界TOP5

※国際大会成績	2024年度実績	2028年度 中間目標	2032年度における達成目標
競泳	- メダル獲得数：銀メダル×1 - 決勝進出者：22名中9名（40.9 %）	- 金メダルを含む複数メダリストの輩出 - パリオリンピックの入賞数13を上回る	 国際大会における メダル獲得総数 世界TOP5
飛込	- 男子高飛込：銀メダル - 女子高飛込：決勝進出 9位	- 個人種目：メダル獲得 - シンクロ種目：8位入賞	
水球	- 男子：予選リーグ敗退（11位/12チーム） - 女子：オリンピック未出場	- 決勝トーナメントへの進出（男子） - ロサンゼルスオリンピック出場（女子）	
アーティスティック スイミング	- デュエット：8位 - チーム：5位	- デュエット：メダル獲得 - チーム：メダル獲得	
オープンウォーター スイミング	- 男子：15位 - 女子：13位	- 男子16位以内 - 女子8位以内	

① 国際競技力の向上

達成に向けたアクション

【競泳】2028年中間目標

金メダルを含む複数メダリストの輩出

パリオリンピックの入賞数13を上回る

選手育成

- ・他の強豪国と比較すると課題となっている、ジュニア世代～大学生世代における競技力成長のサポート
- ・大学生世代の強化により代表チームを満遍なく幅広い世代からなる組織とし、ベテランから若手までお互いがサポートし合えるチーム体制の構築
- ・ジュニア育成に関して、冬の強化時期における標準記録突破者対象の合宿の継続的实施

強化体制

- ・スタッフ間の意思疎通向上を目的とした、グループ別練習の実施等によるベテランコーチと中堅/若手コーチの連携強化
- ・チームで戦う環境を作るべく、オフシーズン期における若手を対象とした自由形リレー合宿の実施を通じた、リレー種目の重点的な強化
- ・自由形の強化に加えて、メドレーリレー強化のための弱点種目の克服についても、中長期的な対応策を実施

重点施策 その他

- ・注力試合で結果を残すために、国際大会でのベストタイム更新率や国内外大会における個々のベストタイム再現率を重視した選考の検討
- ・代表選手の強化拠点を集約し、選手やコーチ、トレーナーらが横連携しやすい体制の整備
- ・スポーツ医科学支援の強化

① 国際競技力の向上

達成に向けたアクション

【飛込】2028年中間目標

個人種目メダル獲得

シンクロ種目8位入賞

選手育成

- ・現段階での主要若手選手を軸とした、継続的に世界大会で結果を残すことができる選手の育成
- ・国際大会における感覚醸成のための継続的な海外遠征等の実施
- ・次世代アスリート育成強化を目的とした、ユニバーシティゲームズへの派遣人数増員の打診（8名）、うちU22以下世代20%以上を目標とする

強化体制

- ・選手共通の強化スケジュールを実施するための強化/合宿ルールの整備
- ・日環アリーナ栃木およびインフロニア草津アクアティクスセンターの強化拠点としての認定打診
- ・代表チーム構成割合20%をターゲットとした、コーチ育成事業を通じた若手/中堅スタッフの育成

重点施策 その他

- ・JOCエリートアカデミーの再開設の検討
- ・JSC Japan rising star事業の再開ならびに地方のTIDの活性化
- ・スポーツ医科学支援の強化

【水球】2028年中間目標

決勝トーナメント進出（男子）

出場権獲得（女子）

選手育成

- ・選手の欧州リーグへの参戦の推進
- ・試合を通じた的確な瞬時の判断力および、他国の1.5倍の運動量の獲得

強化体制

- ・日本代表からジュニアまで、一気通貫の強化体制の構築
- ・若手選手への高水準の練習環境の提供
- ・若手有望コーチの発掘および学びの機会の提供
- ・海外強豪リーグに合わせた、国内試合スケジュールの調整
- ・欧州主要リーグ所属のチームとの強化連携体制の構築

重点施策 その他

- ・社会人選手の国内競技環境の整備
- ・スタッフ/コーチへの待遇の改善
- ・スポーツ医科学支援の強化

① 国際競技力の向上

達成に向けたアクション

【アーティスティックスイミング】2028年中間目標	
デュエット種目メダル獲得	チーム種目メダル獲得

選手育成 強化体制 重点施策 その他	- 男子選手の強化、男子選手向けの講習会の実施 - 強化合宿の継続、迅速な選考会参加レベル選手の育成 - 多種目をこなすことが可能な、メンタルおよび体力がある選手の育成 - ユース、ジュニア、シニアへと一貫した育成体制の強化
	- 専門家（ダンス・サーカス等）によるアクロバティック動作の重点強化 - アクロバティック専任コーチの配置 - 国際性豊かでコミュニケーションスキルが高く、情報収集能力を有するコーチの育成 - 国際ルール、競技レベルの最新動向の情報共有
	- 怪我のリスクに備えた、施設内クリニックとの連携 - 指導者の経済的支援 - AS競技者の増加施策の検討 - スポーツ医科学支援の強化

【オープンウォータースイミング】2028年中間目標	
男子16位以内	女子8位以内

選手育成 強化体制 重点施策 その他	- 大学生を対象とした強化合宿の実施 - 競泳の泳力の向上（インターナショナル標準記録C基準の突破） - 国際レースを通じたレース感覚/駆け引きの強化 - OWS ワールドカップにおけるメダル獲得、複数回の入賞
	- 競泳のジュニア選手のリクルーティング - ターゲットレースにおいて結果を残すためのメンタル面でのサポート - 競泳種目とのダブルオリンピックの育成
	- ジュニア期からの国際大会/主要国内大会の提供 - ジュニアオリンピック開催の打診 - スポーツ医科学支援の強化

3. 中期計画2025-2032

② 水泳競技の普及と発展

主要アクション

- ・ 全国での泳力検定実施などを通じた競技人口の拡大
- ・ SNS活用や観戦体験設計などを通じた国内大会の注目度向上



② 水泳競技の普及と発展

2032年に目指す未来

誰もが気軽に水泳を楽しむ文化を育成し 水の国を楽しむ仲間「AQUA CREW」を増やす

水泳を「する人」「見る人」「支える人」を増やし、競技の発展につなげるため、指導者資格の見直しや活動の場の拡充、競技会の魅力向上に取り組めます。

また、地域や世代を超えて水泳に触れる機会を広げることで、初心者から競技者までが継続して関われる環境を整え、全国でのイベントや新たな情報発信の仕組みを強化し、水泳の価値を多くの人に届けることで、さらなる競技人口の増加や、ファンの拡大を目指します。

② 水泳競技の普及と発展

KPI

誰もが気軽に水泳を楽しむ文化を育成し
水の国を楽しむ仲間「AQUA CREW」を増やす

2024年度実績（期初）

競技登録数： **165,554** 名
泳力検定受検者数： **52,989** 名
競技役員数： **8,612** 名



2032年における達成目標

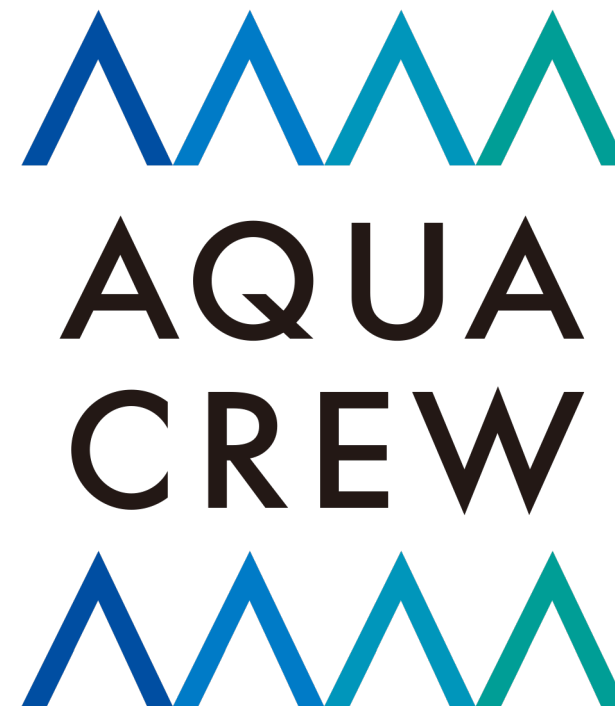
競技登録数： **180,000** 名
泳力検定受検者数： **80,000** 名
競技役員数： **10,000** 名

② 水泳競技の普及と発展

あらゆる形で水泳にかかわる関係人口を可視化し、増やし、熱量を高めていくための仕組みとして、水の国を楽しむ仲間を「AQUA CREW」と定め、本中期計画ではAQUA CREWを増やしていくため、アクションを推進していきます。

トップスイマーも、市井のスイマーも、
水中でウォーキングするお年寄りも、
はじめて水に浸かった赤ちゃんも。
プールで働く人も、
海や川をキレイに保ってくれる人も。
みんなが同じ「水の国を楽しむ」仲間、
AQUA CREW。

この旗印で、トップスイマーと仲間であられることが誇らしく感じる。
スイミングをしていることに胸を張れる。
水に携わっていることが生きがいに感じる。
そうして水泳の、水を楽しむことの裾野を広げていくことで
水泳全体のレベルを押し上げ、トップ選手の国際競争力も上がる。
彼/彼女への憧れがまた強固な裾野をつくる。



② 水泳競技の普及と発展

達成に向けたアクション

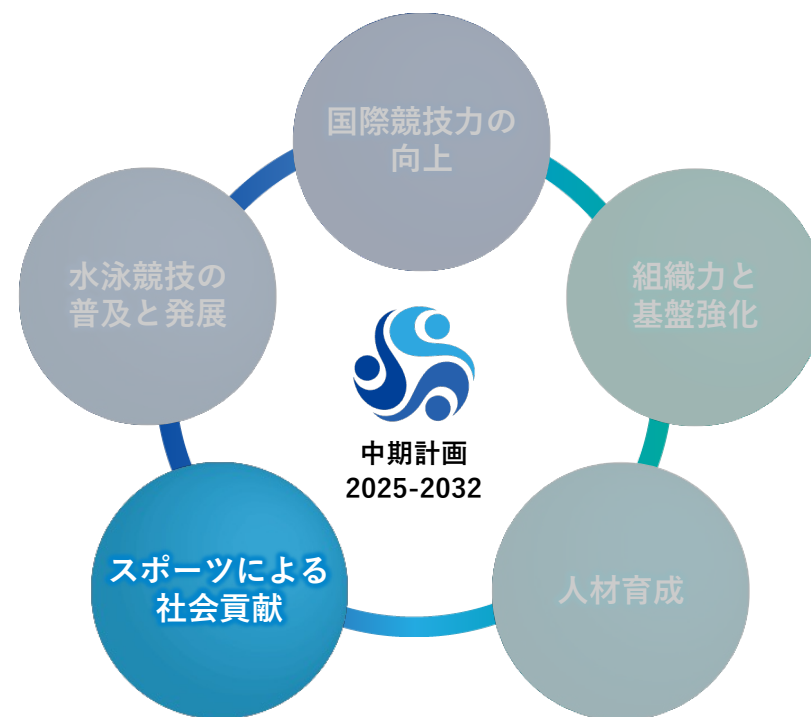
重点領域	具体アクション
競技人口の拡大	・「水泳の日」イベントを全国9ブロックで開催し、地域の水泳参加機会を拡大 ・競技者登録のある大学生から、マスターズ新規登録を年間300名以上増やし、水泳継続率を向上 ・AQUA CREWが相互にコミュニケーションが取れる場の提供 ・日本独自の水泳文化である日本泳法の、現存する13流派の游泳術や水術の保存と普及を推進
競技環境の整備	・指導者資格制度を見直し、指導者の現状を把握し、適切な支援と対応原資を確保 ・全国47都道府県での泳力検定の実施 ・都道府県協会と連携し、部活動の地域移行や少子化、他競技との競争激化への対応を支援 ・公認「水泳教師在籍施設」証明事業の見直し ・大学・企業との研究教育・技術連携の仕組みを確立 ・動作解析・水中映像分析等の科学サポートを充実させることで、新たな魅力を創出し、水泳を楽しめる環境づくりを推進
発信力の強化とファン拡大	・業界紙との共創等によるファンプラットフォームの立ち上げ ・SNS活用や新たな観戦体験の設計により、国内大会の注目度向上施策を推進し、観客動員数を増加 ・「トビウオジャパン」をはじめとする各競技の愛称・呼称の認知度アップ ・キャラクターマーケティングを活用した集客や販促、ブランド力向上戦略の策定・推進 ・ファンの観戦機会を最大化するため、競技会のスケジュールを最適化し、アクセスしやすい環境の整備
支援と共創の仕組みづくり	・クラウドファンディングを立ち上げ、競技者・ファン・支援者がつながり、水にかかわるすべての人の夢や挑戦を応援できる仕組みを構築 ・スポンサー企業との事業連携によるブランド価値向上 ・普及や指導者などアントラージュ支援等も織り込んだ表彰制度の検討・構築

3. 中期計画2025-2032

③ スポーツによる社会貢献

主要アクション

- ・ 水難事故防止を目的とした水泳教育と啓発活動の推進
- ・ 環境問題への対応と資源循環の取り組み強化



③ スポーツによる社会貢献

2032年に目指す未来

水泳を通じて、持続可能な社会へ貢献する

水泳を通じてより多くの人々が安全に水と親しみ、健康的な生活を送れるよう努めるとともに、水資源の保全や防災教育を推進し、豊かで持続可能な社会づくりを目指します。

あらゆる世代の方々へ学びと実践の機会を提供し、水に関わる社会課題の解決に主体的に関与することで、スポーツの枠を超えて、人々が安心して水と共生できる社会に貢献します。

③ 社会貢献

KPI

水泳を通じて、持続可能な社会へ貢献する

2024年度実績

日本水泳連盟主催の
競技会やイベントを通じて
複数の社会貢献プロジェクトを実施



2032年における達成目標

水と共に生きる社会の実現に向けて、
多様な社会課題に取り組むパートナーとして
信頼され、水泳の価値を通じて
持続可能で豊かな未来を支えている

③ 社会貢献

達成に向けたアクション

重点領域	具体アクション
水泳教育と安全の普及	・ スイム・スマイルプロジェクトを全国9ブロックで定期的に開催し、水難事故防止を目的とした教育と啓発活動を推進 ・ 防災スポーツとしての水泳の価値を広める啓発活動を実施し、地域社会での命を守る知識の普及を目指す
健康課題への取り組み	・ Women's Health Projectを全国9ブロックで開催し、女性アスリートが最大限のパフォーマンスを発揮できる環境づくりを支援・推進 ・ 教育機関と連携して、Women's Health Projectの学校現場への普及など女性の健康に関する知識を広める機会を増加 ・ ウェルビーイングプログラムを開発し、生涯スポーツとしての水泳の価値を高める
環境問題への対応と資源循環の取り組み	・ 日本水泳連盟主催の主要大会においてWear to Fashionプロジェクトを実施し、不要な水着やチームウェアのリサイクル・リユースを促進、循環型社会の構築を支援 ・ 水資源保護活動など、日本水泳連盟が主催する環境保全活動を全国9ブロックで展開 ・ IOCオリンピックムーブメントやOCA/JOCと連携した啓発活動を推進

3. 中期計画2025-2032

④ 人材育成

主要アクション

- ・ 教育機関と連携した指導者資格制度の見直し
- ・ 指導者の研修機会の拡充



2032年に目指す未来

水泳の未来をつなぐ指導者の育成と支援を行う

教育機関や関係団体と連携し、質の高い指導環境を整備することで、トップ指導者の育成に加え、指導者層全体を広げる取り組みを推進し、競技力向上と水泳の普及の両立にも寄与することを目指します。地域や世代を超えて多様な指導者を育成し、現役選手から引退後のキャリアまでを支える体制を構築することで、水泳を通じ社会で活躍できる多様な人材を育てることを目指します。

④ 人材育成

KPI

水泳の未来をつなぐ指導者の育成と支援

2024年度実績

競技力向上を目的とする指導者が
中心となり、専門性を活かした指導が
行われている



2032年における達成目標

アスリートの将来を見据えた育成が
できる指導者と、水泳の普及を担う指導者の
両方を養成し、複層的な指導機会を提供する

④ 人材育成

達成に向けたアクション

重点領域	具体アクション
教育機関との連携強化	・部活動における地域連携支援のため、公認指導者18,000人の育成を目指し指導者資格制度を見直すとともに、教育機関と連携して資格取得必須化を推進 ・学校水泳授業についてのマニュアルを作成し、部活動の地域展開のフォローも行う
指導者の研修機会拡充	・指導者講習会・研修会の開催回数および参加人数を1.5倍に増加し、資格講習以外の研修機会も拡充 ・指導者向けキャリアパス制度を導入し、競技指導にとどまらず、水泳普及・安全指導など多様な役割を担える人材の育成・資格講習以外の研修会の拡充 ・国際審判員の育成を目的としたJAQUA World Aquatics Pathwayの策定
オリンピックOBOGネットワークの活用	・OBOGネットワークを活用したキャリア支援体制を構築し、競技経験を指導現場や社会貢献活動に活かす機会を創出 ・OBOGによるオリンピズム(※)の発信 ※スポーツを通じて平和でより良い世界を築く理念
キャリア支援体制構築	・現役選手向けのキャリア相談窓口を設置し、引退後の指導者転向や他分野での活躍をサポート ・競技会場での託児サービスの設置など、子育て世代の競技役員の育成・登用に向けた環境整備 ・指導者やアスリートへのアンチ・ドーピング教育を実施し、クリーンスポーツとしての価値訴求を促進

3. 中期計画2025-2032

⑤ 組織力と基盤強化

主要アクション

- ・ 持続可能な組織体制の構築
- ・ 組織全体の適正人材配置による生産性の向上



⑤ 組織力と基盤強化

2032年に目指す未来

世界水準の競技団体を目指す組織力と 強固な財務基盤を確立する

強固な財務基盤の確立と透明性の高い組織運営を通じて、信頼される競技団体を目指します。
ガバナンスの強化や効率的な運営体制の構築、多様な人材の育成を進めることで、
長期的成長を目指すとともに競技団体としての社会的責任を担い、
JAQUAメンバーが誇りをもって世界一の組織を目指す環境を整備します。

⑤ 組織力と基盤強化

KPI

世界水準の競技団体を目指す組織力と
強固な財務基盤の確立

2024年度実績

全国各地の競技大会で高水準の
競技運営体制を整備し、
安定した組織運営の基盤を構築



2032年における達成目標

財務基盤の安定化と
効率的な運営体制の確立を進めることで、
組織全体の機能を強化し、
持続的に成長できる組織基盤を構築する

⑤ 組織力と基盤強化

達成に向けたアクション

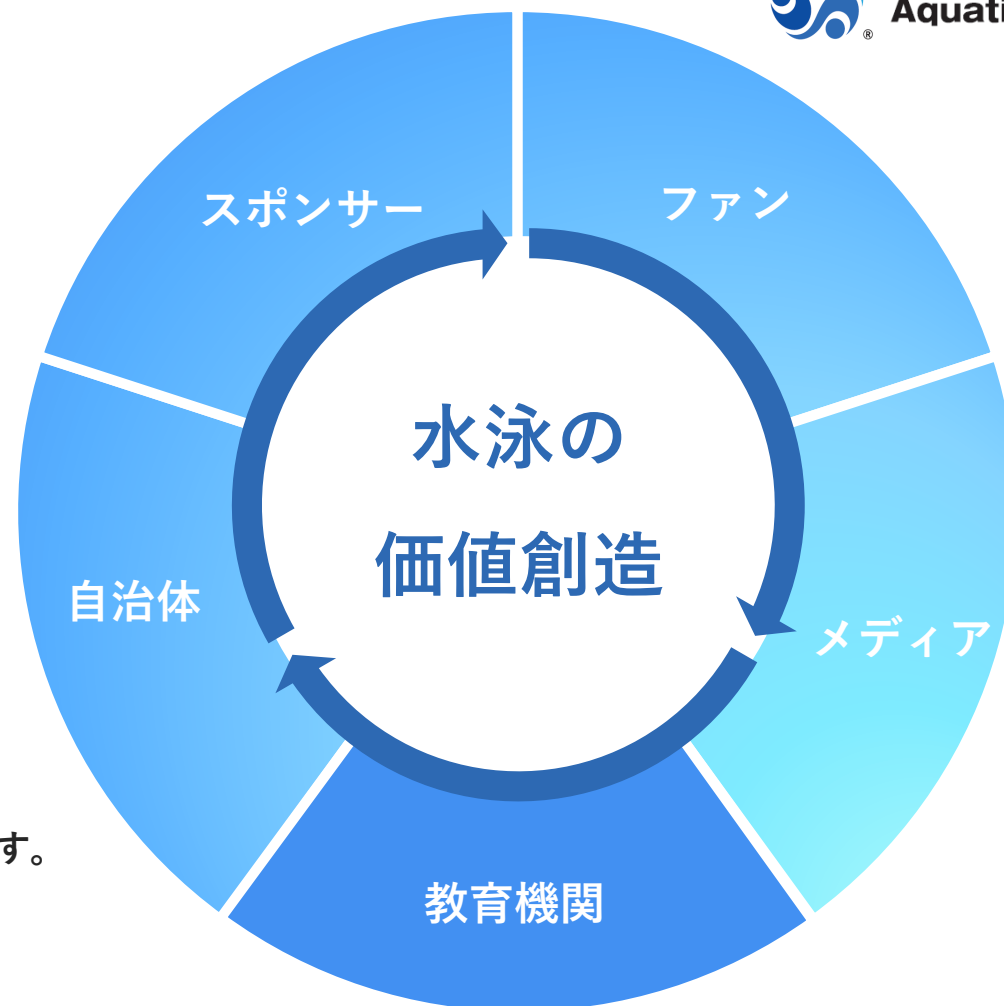
重点領域	具体アクション
財務基盤の安定	・ 定常事業収支の均衡を実現するため、新規収益源の開拓やコスト削減につながる中長期の戦略投資を実行し、持続可能な財務基盤を確立 ・ スポンサーや自治体との共創型プログラム開発など、事業領域の拡大による新規収益源の創出 ・ スポンサー収益20%増加(2024年度比)を目指し、スポンサーシッププログラムの見直しと企業との共創を推進 ・ 競技会の開催回数（場所・期間）を最適化し、効率的な運営を推進
ガバナンス強化 透明性向上	・ ガバナンスコード適合性審査に対応し、情報公開制度の強化や定期的な評価を実施し、透明性の高い組織運営を確立 ・ 意思決定、業務執行体制の最適化を行い、組織の生産性を向上
組織力・人材育成	・ 組織の持続的な成長を支えるため、幅広い分野からの人材登用と育成を進め、組織全体の機能強化を図る ・ 日本水泳連盟内の適正人材配置を進め、組織の生産性を向上 ・ AQUAをはじめとした国際競技団体への人材派遣を継続し、日本水泳連盟のプレゼンスを強化
IT基盤強化	・ 業務のデジタル化を推進し、会計システムの構築やIT基盤の整備を通じて、業務効率化を図る ・ 競技会運営の負担を軽減するため、IT活用など効率的な運営モデルを確立し、運営の最適化を推進

4. ステークホルダーとの連携モデル

共創による相乗効果の創出

日本水泳連盟の活動を円滑に推進し、
持続可能な水泳界の発展を実現するために、
スポンサー、自治体、教育機関、メディア、ファンなどの
ステークホルダーと、これまで以上に
連携を強固にしていきます。

CSR（連盟の社会的責任）からCSV（共有価値の創造）
へと進化させ、共創による相乗効果を目指し、
水泳を通じて、社会に新しい価値を創造する
共創のプラットフォームとして機能していきたいと考えています。



共創による相乗効果の創出

スポンサーとの共創

共創を通じた社会貢献とブランド価値向上

水泳教育の推進

地域や学校で命を守る水泳教育や、泳力検定を共同展開

健康支援活動

企業の製品・サービスを活用した健康プログラムの実施

環境保全活動

河川や海洋の清掃活動、啓発イベントを共同で実施

自治体・学校との連携

地域社会の健康・安全を支え 水泳文化を根付かせる

地域でのイベント開催

水泳教室や防災意識を高める教育イベントを実施

プール施設の整備

学校プールや公共プールを整備・改修

地域コミュニティ形成

主要大会や普及啓発イベントの地域開催

メディアとの協力

水泳の魅力を発信し ファンエンゲージメントを強化

コンテンツ制作・ストーリー展開

日本代表の舞台裏や魅力を伝える映像や記事を共同制作
SNSや配信サービスで幅広い層にアプローチ

ファンイベントの開催

選手とファンが交流できる機会の増加
双方向に交流できるプラットフォーム構築

水泳が「THE BASIC SPORTS」として社会の基盤を支える柱となり、
地域・企業・スポーツが一体となった新たなステージを創り出すことを目指します

5. 推進施策とロードマップ

5. 推進施策とロードマップ

全体ロードマップ



年		2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
主要大会									
フェーズ		短期				中期		長期	
国際競技力の向上	選手育成								
	コーチ/スタッフの育成								
	強化体制の整備								
	練習拠点の整備								
水泳競技の普及と発展	競技人口の拡大								
	競技環境の整備								
	発信力の強化とファン拡大								
	支援と共創の仕組みづくり								
社会貢献	水泳教育と安全の普及								
	健康課題への取り組み								
	環境問題への対応と資源循環の取り組み								
人材育成	教育機関との連携強化								
	指導者の研修機会拡充								
	オリンピックOBOGネットワークの活用								
	キャリア支援体制構築								
組織力と基盤強化	財政基盤の安定化								
	ガバナンス強化・透明性向上								
	組織力・人材育成								
	IT基盤強化								

5. 推進施策とロードマップ

強化ロードマップ

年		2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
主要大会									
フェーズ		短期			中期		長期		
競泳	大学生の競技力の強化								
	ジュニア育成								
	コーチ/スタッフ間の連携の強化								
	自由形/弱点種目の重点的な強化								
	代表チームの一体感の醸成								
飛込	トップジュニア選手の経験値の積み上げ								
	強化体制の整備								
	若手/中堅スタッフの育成								
	有望選手の発掘事業の活性化								
水球	トップ選手の強化								
	代表からジュニアまでの強化体制の連携								
	若手有望コーチの発掘および学びの機会の提供								
	競技環境の整備								
アーティスティック スイミング	講習会/合宿等を通じた男子選手の強化								
	専門家によるアクロバティック動作の強化								
	国内外で活躍できるコーチの育成								
	競技者/指導者の増加施策の実施								
オープンウォーター スイミング	合宿等を通じた競泳の競技力の向上								
	国際大会への参加/レース感覚の強化								
	競泳ジュニア選手のリクルーティング								
	大会/合宿の増設								

水の国を、楽しみ尽くそう。

人類の起源は、水の中。
ひとりひとりが生まれる時も、水の中から。
そう考えるとわたしたちは、
生物として根本的に、水とつながっている。
ましてや日本は、水の国。
水と関わり合いのない生活を送る方が、
むしろ不自然でさえある。

だからこそわたしたち日本水泳連盟は、
「国民皆泳」を掲げる。
幼少期の体力から、老年期の健康まで、
水とともに生きていく。
水を楽しみ尽くすことは、人生を楽しみ尽くすこと。
この星に生まれた人類は、宇宙でもっとも運がいい。
この国に生まれた人たちは、地球でもっとも運がいい。



JAQUA®

公益財団法人 **日本水泳連盟**
Japan Aquatics



JAQUA®

公益財団法人 **日本水泳連盟**

Japan Aquatics